

北広島市 市民意識調査・公益活動団体意識調査 調査結果（概要版）

現長期総合計画が平成22年度をもって終了するのに伴い、平成23年度を始期とする新しい長期総合計画を策定していくため、市民のまちづくりに対する考え方や意見を整理・把握し、今後のまちづくりの方向性や諸課題への対応を検討するうえでの基礎資料とすることを目的として実施した。

I 市民意識調査

- 対 象：北広島市在住の18歳以上の男女3,000人
- 時 期：平成20年9月1日～9月20日
- 方 法：郵送調査法、自記式
- 回収数：1,399件（回収率46.6%）

II 公益活動団体意識調査

- 対 象：市内で活動する公益活動団体690団体
- 時 期：平成20年9月1日～9月20日
- 方 法：郵送調査法、自記式
- 回収数：444件（回収率64.3%）

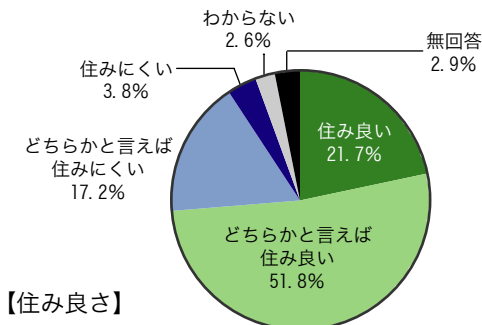
I 市民意識調査 調査結果

生活環境

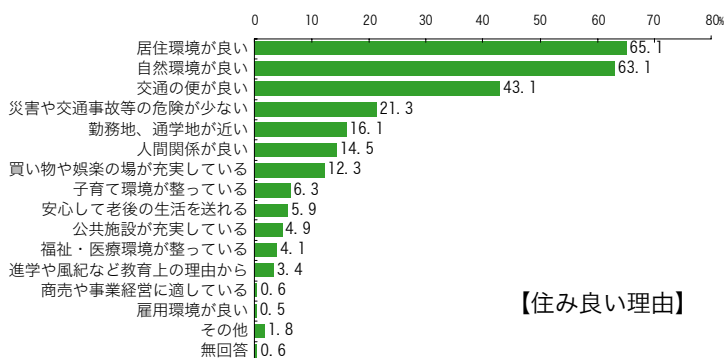
約7割が住み良いと回答
今後も市内に住み続けたい人が6割程度

住み良さ

- 「どちらかと言えば住み良い」が最も多く（51.8%）、住み良いとの回答（「住み良い」＋「どちらかと言えば住み良い」）が約7割。
- 住み良いと回答した理由としては、「居住環境が良い」（65.1%）、「自然環境が良い」（63.1%）が多くなっている。
- 住みにくいと回答した理由としては、「交通の便が悪い」（69.4%）、「買い物や娯楽の場が少ない」（53.7%）が多くみられる。



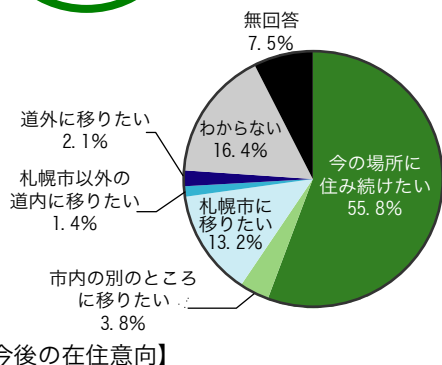
【住み良さ】



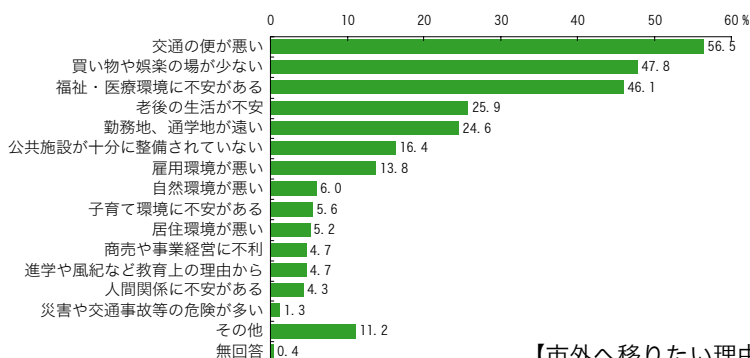
【住み良い理由】

今後の 在住希望

- 全体の約60%が、今後も北広島市に住み続けたい（「今の場所に住み続けたい」＋「市内の別のところに移りたい」）と回答。
- 市外へ移りたいとした回答者の移住希望理由としては、住みにくい理由と同様、「交通の便が悪い」（56.5%）、「買い物や娯楽の場が少ない」（47.8%）が多くなっている。



【今後の在住意向】



【市外へ移りたい理由】

施策の満足度と今後の重要度

満足度 重要度 分析

■ 重点的に取り組むべき施策を抽出するため、施策項目ごとに満足度、重要度の偏差値を算出し、全項目の総体的な位置づけがわかるよう、満足度、重要度を軸として図表化を行なった。

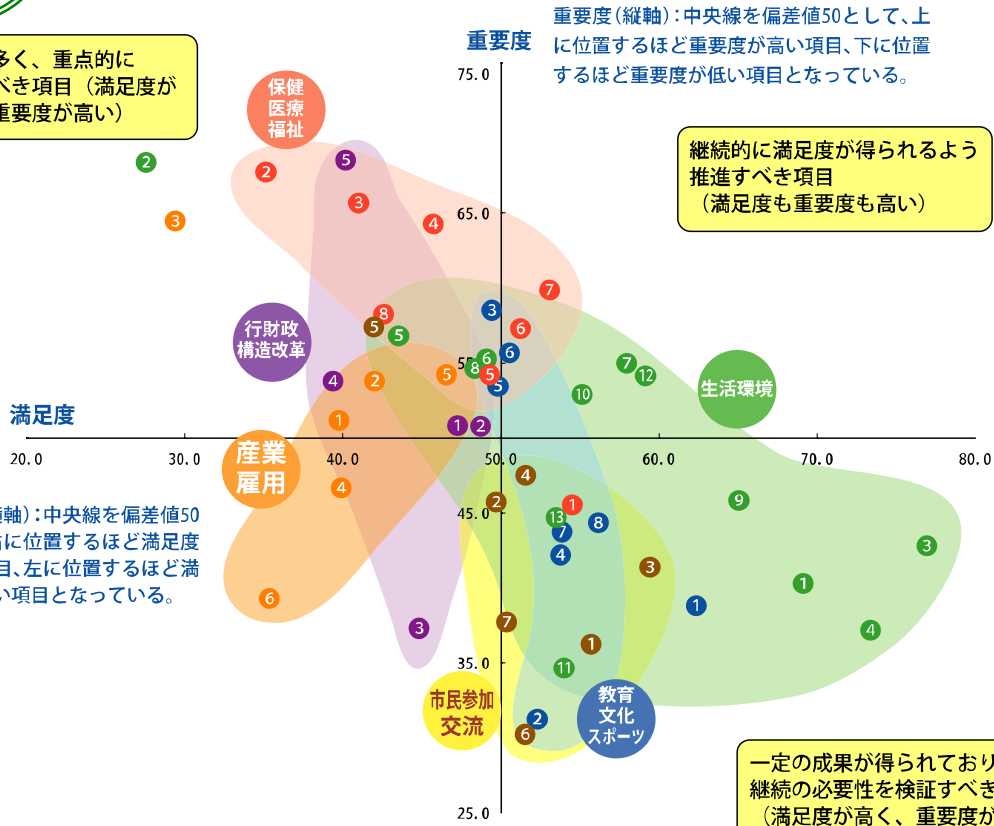
課題が多く、重点的に
推進すべき項目（満足度が
低く、重要度が高い）

満足度(横軸):中央線を偏差値50
として、右に位置するほど満足
度が高い項目、左に位置するほど
満足度が低い項目となっている。

重要度(縦軸):中央線を偏差値50として、
上に位置するほど重要度が高い項目、下に位置
するほど重要度が低い項目となっている。

継続的に満足度が得られるよう
推進すべき項目
(満足度も重要度も高い)

一定の成果が得られており、
継続の必要性を検証すべき項目
(満足度が高く、重要度が低い)



【各施策項目における満足度・重要度の評価得点の偏差値】

	施策項目	満足度	重要度
1 生活環境	①安全、快適に移動できる道路の充実	69.3	40.1
	②除雪や排雪の充実	27.6	68.4
	③衛生的な上下水道の整備	77.0	42.9
	④公園・緑地の充実したまち並みの形成	73.4	37.4
	⑤利便性の高い公共交通の充実	43.6	56.9
	⑥ごみ減量・リサイクルの意識の浸透	49.2	55.4
	⑦災害に強い安全なまちの形成	58.0	55.1
	⑧街路灯など防犯設備・体制の充実	48.4	54.7
	⑨森林や川など自然環境の保全	65.1	45.9
	⑩大気汚染、水質汚染などの公害対策の充実	55.2	53.0
2 保健・医療福祉	①多様なニーズに対応する住宅供給の充実	53.9	34.7
	②安全・安心な「食」の充実	59.2	54.3
	③公共施設の充実と活用	53.6	44.8
	①健康づくりを推進する体制の充実	54.5	45.5
	②医療環境の充実	35.8	67.8
	③緊急時の救急医療体制の充実	41.2	65.8
	④高齢者が安心して暮らせる社会の形成	45.7	64.5
	⑤障がい者が地域で自立した生活ができる社会の形成	49.3	54.2
	⑥乳幼児を安心して育てられる環境の充実	51.4	57.3
	⑦子どもを健全に育成するための環境の充実	52.8	59.8
3 産業・雇用	⑧子育てと仕事が両立可能な社会環境の充実	42.5	58.1
	①地域の経済をけん引する企業の集積	39.6	51.2
	②企業誘致や産業育成などによる市内産業の拡大	41.7	53.9
	③安定した雇用の場の確保	29.3	64.2
	④品揃えの豊富な小売店の充実	40.0	46.7
	⑤活気ある農業の振興	46.7	54.2
⑥地域資源を有効に活用した観光産業の充実	35.3	39.6	

	施策項目	満足度	重要度
4 教育・文化・スポーツ	①芸術や文化に触れ親しむ機会の充実	62.4	38.6
	②市の歴史や文化に対する意識の浸透	52.4	30.9
	③小中学校における教育内容の充実	49.7	58.4
	④自然や地域、社会など様々な体験機会の充実	53.9	42.3
	⑤豊かな学校生活を支える施設・設備の充実	49.7	53.5
	⑥家庭、学校、地域が連携した教育体制の構築	50.6	55.7
	⑦生涯学習活動の機会の充実	53.7	43.7
	⑧スポーツ・レクリエーション活動に親しむ機会や環境の充実	56.2	44.3
5 市民参加・交流	①自主的な市民活動の充実	55.6	36.2
	②市民、企業、行政、各種団体との協働によるまちづくりの推進	49.9	45.6
	③町内会・自治会による地域活動の充実	59.6	41.3
	④市政に関する情報発信の充実	51.7	47.5
	⑤市民の意見の収集と市政への反映	42.2	57.3
	⑥国際交流の推進	51.7	30.1
6 行財政構造改革	⑦他市町村との交流による広域連携の推進	50.6	37.6
	①民間委託等の推進による行政経費の抑制	47.4	50.7
	②市民などの協働による行政サービスの範囲の見直し	48.5	50.6
	③公共施設の有料化などの受益者負担の導入	44.9	37.4
	④職員数の削減や人件費抑制	39.6	53.9
⑤職員の意識改革による職員の資質向上	40.3	68.3	

青数字: 偏差値50.0以上 (平均よりも高い評価)
赤数字: 偏差値50.0未満 (平均よりも低い評価)

分野別分析

除雪や保健・医療・福祉で重要度が特に高い 生活環境や市民参加は概ね満足

生活環境

- 満足度は、「除雪や排雪の充実」において、全項目中最も低い得点となっている。また、「利便性の高い公共交通機関の充実」もやや低い得点となっている。一方、道路、上下水道、公園などの社会的インフラの整備などについては高い満足度となっており、上位10項目中6項目を生活環境分野が占めるなど、全体的には満足度の高い分野となっている。
- 重要度は、「除雪や排雪の充実」が全項目中最も高い得点となっており、満足度と合わせて考えて最も課題が多い項目とすることができる。他の重要度では、ごみ対策、交通関連施策、災害・防犯対策に対する関心が高い。一方、道路や上下水道、公園・緑地、住宅などに関する施策は、満足度が高い反面、重要度は低くなっており、現状維持できれば問題ないとの認識を市民が持っていることがうかがえる。

保健・医療 ・福祉

- 満足度は、「健康づくりを推進する体制の充実」でやや高いものの、「医療環境の充実」、「緊急時の救急医療体制」、「子育てと仕事が両立可能な社会環境の充実」などでは他の分野に比べ低くなっており、全体的にはやや満足度が低い分野となっている。
- 重要度は、満足度の高い「健康づくりを推進する体制の充実」を除くほとんどの施策項目で偏差値が50を大きく超えており、医療・保健・福祉分野に対する市民の関心の高さがうかがえる。特に、「医療環境の充実」、「緊急時の救急医療体制」、「高齢者が安心して暮らせる社会の形成」については、重要度が60を大きく超えている。

産業・雇用

- 満足度は、すべての施策項目において偏差値が50を下回っており、全項目中下位10項目のうち、産業雇用分野の項目が5項目を占めるなど、満足度が低い分野となっている。
- 重要度は、「安定した雇用の場の確保」が高くなっているが、全体としては偏差値50前後に固まっており、雇用対策以外については、市民の関心が他の分野に比べてそれほど高くないことがうかがえる。

教育・文化 ・スポーツ

- 満足度は、「芸術や文化に触れ親しむ機会の充実」が高くなっているが、全体的には平均値周辺にグループを形成している。
- 重要度は、学校教育関連項目は重要度が高く、市民の関心が高いことがうかがえる。一方、社会教育関連分野については軒並み平均を大きく下回っており、市民の関心があまり高くないことがうかがえる。

市民参加 ・交流

- 満足度は、「市民の意見の収集と市政の反映」で低くなっているほかは、ほとんどの項目で満足度が平均値以上となっており、全体的には満足度の高い分野となっている。
- 重要度は、全体的に低くなっており、「市民の意見の収集と市政の反映」を除いた全ての項目で偏差値が50を下回るなど、他の分野と比較すると市民の関心があまり高くないことがうかがえる。

行財政 構造改革

- 満足度は、全ての項目で偏差値50を下回っており、満足度の低い分野となっている。
- 重要度は、「職員の意識改革による職員の資質向上」が全項目を通じて2位となるなど、効率的な行政の推進に向け、まずは市役所自身が変わっていくことが市民から求められていることがうかがえる。また、「公共施設の有料化などの受益者負担の導入」で重要度が低くなっており、受益者負担の考えに対して抵抗のある市民が多いことがうかがえる。

地区別分析

北広島 団地地区

- 満足度では、「除雪や排雪の充実」において、他の地域に比べると満足度は高いと言える（ただしそれでも全項目から比べると低い）。また、「利便性の高い公共交通の充実」も他地域に比べ高い満足度となっている。
- 重要度では、「企業誘致や産業育成などによる市内産業の拡大」でやや他地区に比べ高くなっているが、あとはそれほど大きな特徴はなく、全体的な傾向と似通った結果となっている。

西の里地区

- 満足度では、「利便性の高い公共交通の充実」で全体に比べて低い満足度となっている一方、「医療環境の充実」では他地域に比べて高い満足度となっている。その他、満足度の低い項目としては、上下水道の整備や防犯対策、公害対策、小売店の充実などとなっており、高い項目としては、ごみ減量等の意識の浸透、障がい者が自立できる社会形成、子育てと仕事の両立が可能な社会環境の充実などとなっている。
- 重要度では、「豊かな学校生活を支える施設・設備の充実」が他地区に比べて高く、学校施設等の整備に対する期待が大きいことがうかがえる。その他、特徴的な項目として「医療環境の充実」が満足度とともに高いほか、教育における体験機会の充実、国際交流の推進なども他地区に比べてやや高い。

大曲地区

- 満足度では、「除雪や排雪の充実」の満足度が極めて低く、全地域・全項目中最も低い偏差値となっている。また、「利便性の高い公共交通の充実」、「公園・緑地の充実したまち並みの形成」も他地区と比べ低くなっており、機能として不十分であるとの認識を市民が持っていることがうかがえる。その他、他地域と比べて、道路環境や障がい者が自立できる社会形成、芸術や文化に触れ親しむ機会の充実などでやや低く、災害に強い安全なまち形成や安定した雇用の場の確保などでやや高い傾向がみられた。
- 重要度では、突出して高い項目はないが、道路や公共交通の充実、スポーツ・レクリエーション活動の機会や環境の充実などで、他地域に比べてやや高く、医療環境の充実でやや低くなっている。

西部地区

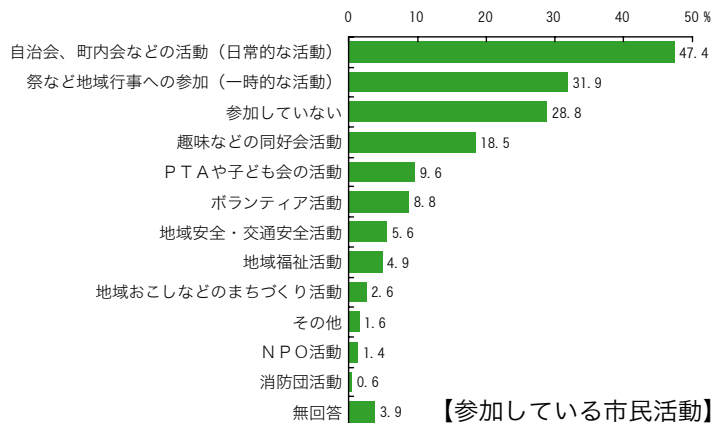
- 満足度では、「安全、快適に移動できる道路の充実」、「衛生的な上下水道の整備」、「利便性の高い公共交通」で他地区に比べて低い点となっており、特に「利便性の高い公共交通」については、非常に満足度が低い結果となっている。一方、「家庭、学校、地域が連携した教育体制に構築」で他地域と比べ満足度が高くなっており、地域一体となった教育環境構築が市民の意識として根付いていることがうかがえる。その他、住宅供給、産業の拡大、雇用の場の確保、歴史・文化の意識醸成、学校施設、地域一体での教育体制の構築、スポーツ・レクリエーション活動の機会や環境の充実などで、他地域に比べやや満足度が高く、公園・緑地の充実でやや低くなっている。
- 重要度では、「利便性の高い公共交通」、「活気ある農業の振興」、「地域資源を有効に活用した観光産業の充実」が他地域と比べて高くなっている。農業振興に対しては、他地域と比べ突出しており、この地区の大きな特徴となっている。その他、公共交通の充実や安全・安心な食の充実で他地域に比べ重要度がやや高く、災害に強い安全なまち形成、防犯体制の充実、自然環境保全、公害対策、医療環境の充実、高齢者が安心して暮らせる社会形成などでやや低くなっている。

東部地区

- 満足度では、「利便性の高い公共交通の充実」が他の地域に比べて高くなっている。また、高齢者が安心して暮らせる社会形成でやや高く、災害に強い安全なまち形成でやや低い。全体的には、北広島団地地区と同様、突出した項目は少ない地域となっている。
- 重要度では、災害に強い安全なまち形成でやや高く、公共交通の充実でやや低い傾向があるものの、全体と比較して大きな差異がある項目はみられない。

まちづくりへの参加状況

- 参加している市民活動としては、「自治会、町内会などの活動（日常的な活動）」（47.4%）が最も多く、「祭など地域行事への参加（一時的な活動）」（31.9%）が続く。「参加していない」は28.8%。



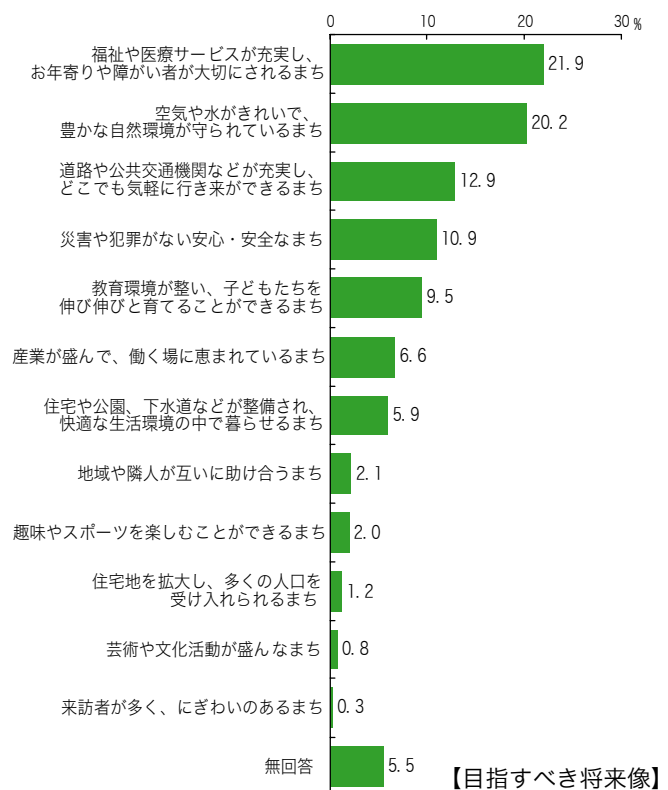
今後充実してほしい施設

- 今後充実してほしい施設については、「整備してほしい・充実してほしい施設がある」が47.0%、「現状で満足している」が29.5%となっている。
- 整備してほしい・充実してほしい施設は、「病院」（119件）、「プール」（74件）、「図書館・図書室」（43件）などが多くあげられている。

将来の北広島市の姿

- 将来の北広島市が目指すべきまちの姿については、「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がい者が大切にされるまち」（21.9%）が最も多く、次いで「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られているまち」（20.2%）が多い。
- 年齢別では、50歳以上の回答者で「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がい者が大切にされるまち」が多くなっているが、30歳未満では「空気や水がきれいで豊かな自然環境が守られているまち」が、30歳代では「教育環境が整い、子どもたちを伸び伸びと育てることができるまち」が、40歳代では「道路や公共交通機関などが充実し、どこでも気軽に行き来できるまち」がそれぞれ最大の回答を集めるなど、世代の特徴を反映している。
- 居住地別では、大曲地区、西部地区では「道路や公共交通機関などが充実し、どこでも気軽に行き来できるまち」が最も多く、住みにくさとして多く挙げられた交通の便に対する将来への期待がうかがえる。

豊かな自然環境を守りつつ医療・福祉が充実したまちづくりが期待されている



自由意見

- 今回の市民意識調査では585件の自由意見を得たが、分類するとまちづくり全般に関するものが325件、「交通」に関するものが95件、「除雪」に関するものが60件、「医療」に関するものが59件、「教育」に関するものが37件、「産業・雇用」に関するものが35件、「ごみ」に関するものが34件、「福祉」に関するものが25件、「子育て」に関するものが20件、これら項目に分類できない「住環境」に関するものが55件となった。このほかでは、「市役所・行政に対する意見」が91件、「その他」が19件となったが、とりわけ「交通」、「除雪」、「医療」に関する意見が多かった。

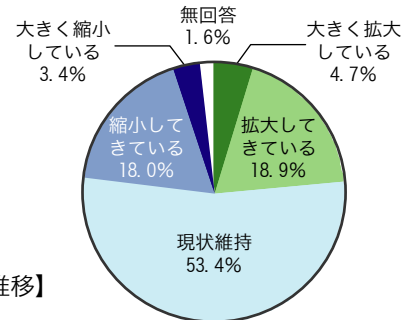
II 公益活動団体意識調査 調査結果

活動状況

団体規模はやや拡大傾向 今後の拡大意向も拡大したいとの意向が4割

団体規模

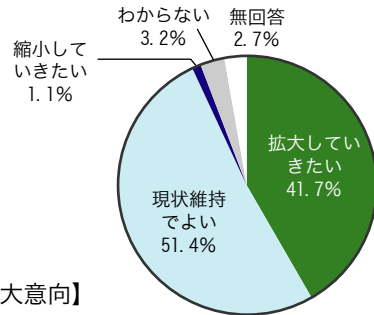
■ 団体規模をみると、「現状維持」（53.4%）の団体が最も多く、拡大傾向（「大きく拡大している」＋「拡大してきている」）にあるとする団体と、縮小傾向（「大きく縮小している」＋「縮小してきている」）にあるとする団体では、若干拡大傾向の団体が多い。



【団体規模の推移】

今後の拡大意向

■ 今後の規模拡大の意向は、「現状維持でよい」（51.4%）が最も多いが、「拡大していきたい」（41.7%）も多い。



【今後の拡大意向】

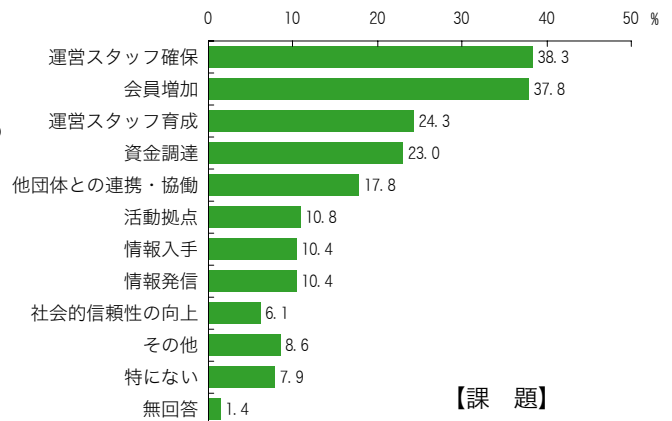
活動における課題

活動の担い手の充実が重要な課題となっている 活動分野によって課題認識に特徴

課題

■ 課題については、「運営スタッフ確保」が最も多く38.3%、次いで「会員増加」が37.8%、「運営スタッフ育成」が24.3%となっている。

■ 活動分野別にみると、地域活動や保健・医療・福祉関係、まちづくり関係は「運営スタッフの確保」が、スポーツ関係や学術・文化・芸術関係では「会員の増加」が、環境保全関係や子どもの健全育成関係では「資金調達」と「運営スタッフの確保」に対して課題と感じている団体が多い。

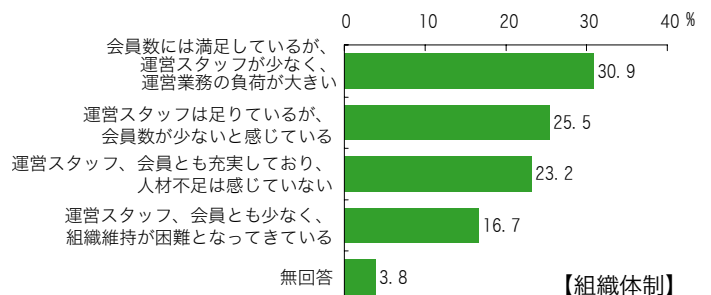


【課題】

組織体制

■ 組織体制では「会員数には満足しているが、運営スタッフが少なく、運営業務の負荷が大きい」（30.9%）が最も多く、「運営スタッフは足りているが、会員数が少ないと感じている」（25.5%）が最も多い。

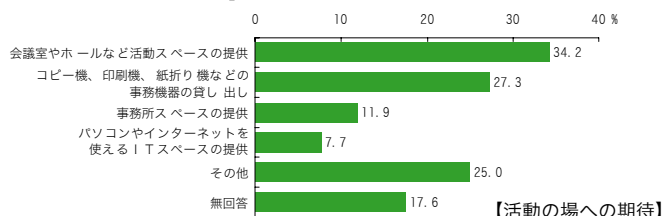
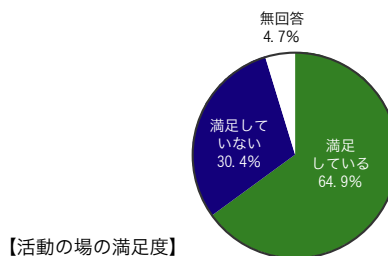
■ 「運営スタッフは足りているが、会員数も充実しており、人材不足は感じていない」（23.2%）、「運営スタッフ、会員とも少なく、組織維持が困難となってきている」（16.7%）も多い。



【組織体制】

活動場所

- 活動場所の満足度は、「満足している」（64.9%）が多い。
- 不満のある施設としては、中央公民館や住民センターをはじめ、老朽化が進む地域のコミュニティ施設が多く挙げられたほか、学校等も含めたスポーツ設備についても改善を望む声が多い。
- 活動の場への期待については、「会議室やホールなど活動スペースの提供」（34.2%）が最も多く、近年の市民活動の高まりなどにより、活動場所が不足してきている状況がうかがえる。

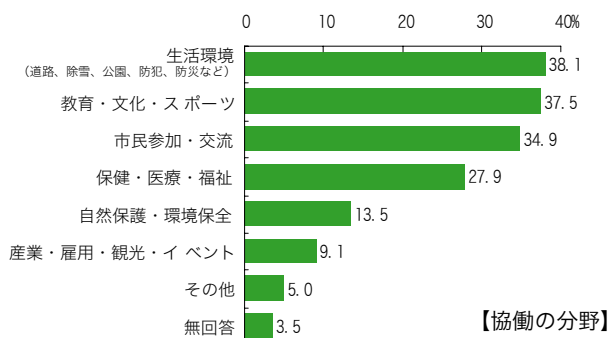
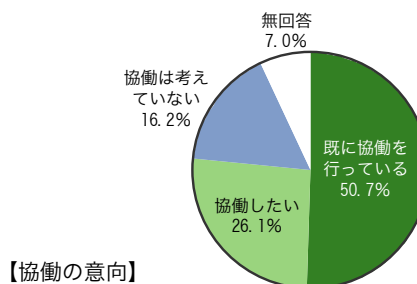


活動に関する行政との協働

3/4の団体が行政との協働に前向き
施設設備の貸与や資金援助などに期待

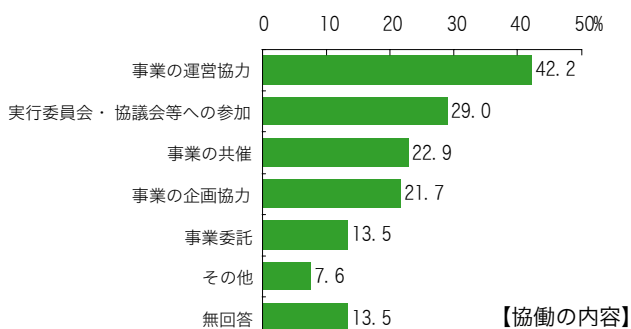
協働の意向

- 行政との協働の意向については、「既に協働を行っている」（50.7%）が半数を超えており、「協働したい」（26.1%）も含めて全体の3/4以上の団体が協働に前向きな姿勢をみせている。
- 協働を考えていない団体の理由としては、必要性を感じない、メリットがないといった協働自体に魅力を感じていないとする理由が6割、高齢化などでスタッフが少なく余裕がないといった団体側の体制を問題とする理由が3割強となっている。



協働の分野

- 「生活環境（道路、除雪、公園、防犯、防災など）」が最も多く38.1%、次いで「教育・文化・スポーツ」が37.5%、「市民参加・交流」が34.9%となっている。
- 協働したい分野は、各団体の活動分野と密接に結びついている。

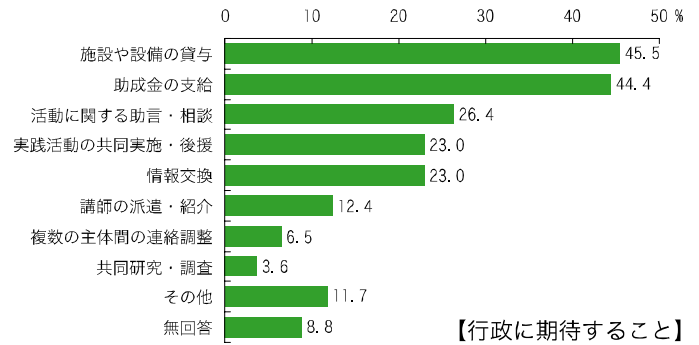


協働の内容

- 協働の内容については、「事業の運営協力」（42.2%）が最も多く、「実行委員会・協議会等への参加」（29.0%）が続いている。

行政に期待すること

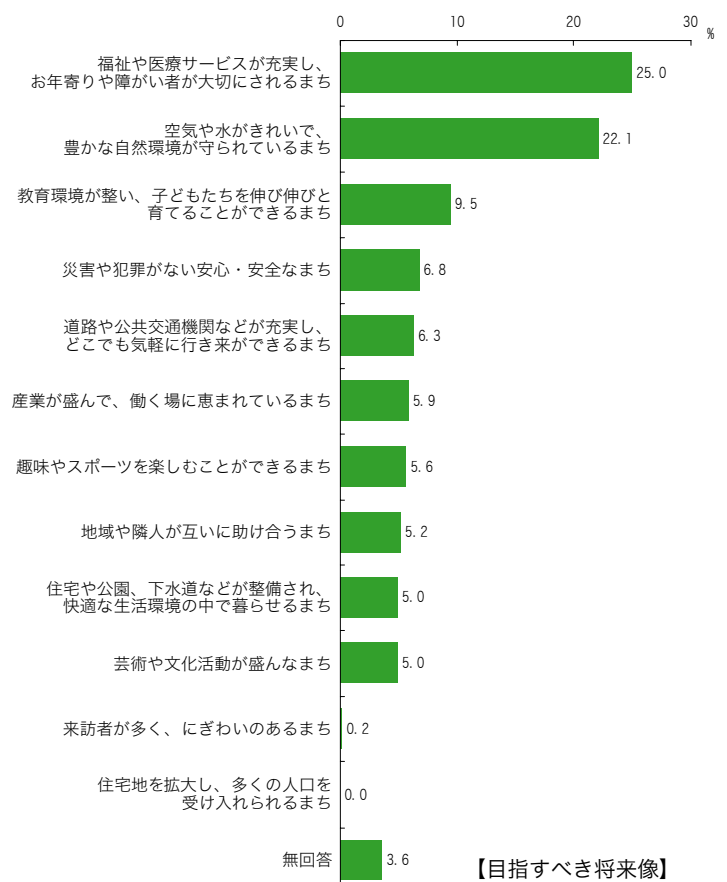
■活動を行うにあたって行政に望むこととしては、「施設や設備の貸与」（45.5%）、「助成金の支給」（44.4%）の順が多い。



将来の北広島市の姿

■将来の北広島市が目指すべきまちの姿として、最も多く挙げられたのは、「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がい者が大切にされるまち」（25.0%）となっている。次いで「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られているまち」（22.1%）が挙げられている。

市民意識調査同様、保健・医療・福祉の充実と自然環境の維持が上位に



自由意見

- 市民意識調査と同様に交通アクセスの改善などのほか、個別の活動に対するものが多かった。また、活動自体に関する助成、補助などのほか、各種施設に関する利用時間などの拡大や活動内容のPRなど広報の要請も多かった。
- 高齢化に伴う課題についても数多く聞かれ、例えば老人クラブなども意識の変化やニーズの多様化などにより参加率が低下するなど活動が停滞するケースが増えているとの意見もあった。
- 町内会活動などについても、役員のなり手が少なく固定化したり、そもそも町内会に対する意識が変化して、組織率が低下したり、連携が取りづらくなっているなどの懸念も聞かれた。

<問合せ先> 北広島市企画財政部政策調整課

〒061-1192 北広島市中央4丁目2番地1

TEL : 011-372-3311 (内線771) FAX : 011-372-3850

E-mail : seisaku@city.kitahiroshima.lg.jp